

富山県総合計画審議会 第2回未来部会 議事要旨

1 日時：平成29年4月26日（水）13:30～15:30

2 場所：県民会館8階バンケットホール

3 出席委員（五十音順）

金岡部会長、神川副部会長、内山委員、老月委員、大西委員、大野委員、小見委員、
桃野委員、吉田委員、和田委員

関専門委員、坪内専門委員、西野専門委員、藤田専門委員、マリ・クリスティーヌ専門
委員、村上専門委員、山内専門委員

4 議事

(1) 新総合計画の政策骨子（案）

(2) 意見交換

5 発言要旨

(1) 知事挨拶

- ・ どうも皆さん、こんにちは。本日、富山県総合計画審議会の第2回未来部会を開催しましたところ、委員の皆さま、大変お忙しい中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。
- ・ この総合計画の見直しについては、ご案内のとおり昨年12月に第1回の全体の総合計画審議会を開催いたしまして、新たな計画について諮問させていただいた後、今年1月下旬から、活力・未来・安心の三つの部会、そして全体の取りまとめを行う総合部会を開催させていただきまして、大変ご熱心なご意見を頂きました。また、今回は新たに総合部会の下に青年委員会を設けました。この青年委員会についてはこれまで2回、議論をしていただき、大変活発なご意見を頂いております。
- ・ この未来部会は今回が2回目ですが、ご承知のとおり、子育て支援、少子化対策、学校教育や家庭・地域における人づくり、芸術・文化・スポーツの振興、国際交流、都市景観づくり、森づくりなど、大変広範囲にわたっており、未来を担う人づくり、美しい県土づくりを進めるという意味で、大変重要なものがたくさんございます。
- ・ 今日はこれまでの審議会や各部会での検討結果を踏まえ、政策骨子案（未来）を提示させていただきます。皆さまには政策目標、取組みの基本方向、重点として進めるべき施策について、それぞれのお立場から率直なご意見・ご提言を頂きたいと思っております。第4次産業革命への対応、働き方改革、男女含めて一億総活躍など、いろいろなことがいわれている時代です。しっかりと10年先を見据えた明確なビジョンを描き、そしてそれに向けて県民の皆さん、各界各層の皆さんと力を合わせて、しっかりと新しい富山県の未来をつくっていききたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

- ・ なお、この後、タウンミーティングやパブリックコメント、市町村との意見交換等も予定しております。今日の議論はそのような場にたたき台的に示す際に、その骨格になる大事などころになると思いますので、限られた時間ですが、ぜひよろしく願います。以上でご挨拶いたします。

(2) 資料説明（事務局より） 省略

(3) 意見交換

【金岡部会長】

- ・ 早速、意見交換に入ります。ポイントとして、この計画は10年間と非常に長いので、難しいことではございますが、分厚い資料2において太枠で囲んである政策目標の方向性に特に問題がないか、また、資料2の右のページにある主な施策の中に重大な漏れがないかについて、ご意見を承れればと思います。なお、進め方ですが、28の項目があるので、資料1にある展開目標1～4の四つに区切って皆さまのご意見を頂きたいと思えます。

【村上専門委員】

- ・ 大変よく意見を吸い上げて書いていただいていると思うのですが、展開目標1の「仕事と子育てを両立できる職場環境づくり」、それから展開目標3の中にある男女共同参画社会づくりにもちょっと繋がるかと思いますが、近年、働き方改革や「女性が輝く社会」といったことがいわれており、若い世代が働きやすい方向にあると思います。少し触れられてはいますが、事業主に向けた意識啓発というところを気持ち的にはもう少し太字で書いてもらいたいと思います。世の中の的にはイクボスといわれており、全国の行政でも取り組まれています。長時間労働や休みづらい環境の改善というのは、なかなか若手の努力だけではうまくいきません。働き方改革、女性の社会進出、男性の家庭・育児への参画というのは表裏一体で、上司の意識が非常に大きく影響すると思うので、そのあたりにもう少し触れていただけるといいかと思っております。

【桃野委員】

- ・ 資料2の未来2あたりに保育サービスの充実、子育て支援等の展開とあります。その中で放課後児童クラブの開設日数や開設時間の延長が掲げられていますが、私はやはり学童保育に少し触れてほしいと思います。この中では、学童保育には全然触れていません。特に私の経験から言うと、学校の教科が終わった後の子どもたちの保育が非常に大事で、若いお母さん方にも勧められたこともあり、空き教室を利用した学校内の児童館、あるいはそうではなしに全くの児童館を充実するといったことが大事ではないかと思っております。学童保育・児童館についてはここで触れていないので、少し触れておけばどうかという意見です。

【マリ・クリスティーヌ専門委員】

- ・ 先ほどのお話の中で、10年は長いとおっしゃいましたが、あっという間に10年過ぎてしまうと思います。以前、神奈川県の方策の方もやらせていただいていたのですが、やはりチェック機関がすごく重要で、これに対してもチェックを今後どのようにしていくのかを検討された方がいいと思います。一つ一つの事業に対する評価、続ける方がいいのか、それとも時代によって10年間の中で変更した方がいいのかを見られるようにすることも大事だと思うのです。
- ・ 子育て支援の中で、今のお話にもあった企業の意識についてですが、ついこの間、アイスランドが男女とも同じ給与をもらうように法律化させました。やはり女性が働くということは男性が働くのと同じように大変であり、むしろ母子家庭であったり、一人で生活していたり、親の面倒を見ていたりすると、日本の場合はどうしても女性の賃金が男性より低くなるので大変です。そのような中で富山県が男女の給与を同じにしたとなると、富山県にとっても非常にニュースバリューがあると思うので、ぜひそういうことも考えていただきたいと思います。また、私は先月にちょうどアメリカに行って、現地の保育取材したのですが、今、オバマケアがいろいろ問題になっていますけれども、驚いたことにオバマケアに入っている女性たちが妊娠すると、低賃金の若い人たちなど、産婦人科に行くときの送り迎えをこの制度が負担してくれるのです。前の日に予約すると、家まで迎えに来てくれて、産婦人科に連れて行ってきて、また家まで送り返してくれるのです。それから、子どもにとって栄養をとることはすごく重要なので、アメリカで言うフードスタンプではないのですが、似たようなもので、妊婦さんがちゃんと栄養を取れるように食事を提供するのです。買うものは限られていますが、ちゃんと栄養のあるもので、それによって妊婦さんがちゃんと食べるということも守れるというか、支えられるようにしているわけです。ですから、そういうことも1番の中に入れていただければと思います。
- ・ あと、もう一つ義務付けられていることとして、保育園にカメラがあるのです。4カ所ぐらいで、自分の家で自分の子どもがどういう状態かをいつでもずっと見られるようになっていきます。そういうことも少し保育に対して義務付けしていただけると、親も安心して子どもを預けることができるのではないかと思います。

【山内専門委員】

- ・ 私はとやまマリッジサポートセンターの方とお仕事をする機会があつて、お会いしたことがあるのですが、すごく良い取組みだと思っています。なおかつ、一つリクエストがあるとすれば、これは男女参画の話にもつながるのですが、賃金は女性の方が低いのが現状なのですけれども、たまに男性よりも稼ぎがあつて、仕事が好きな女性というパターンもあります。そのような女性と、そんなに収入はないけれども、家事や育児が好き、あるいは得意な男性のマッチングをするような合コン、婚活パーティをやらせてもらえたらいいなと思いました。ついこの間、そのような方とお会いしたのです。女性で私より年齢が上なのですが、結婚されていなくて、仕事は社長さんをされていて、「独身なんです」とお話しされていました。そういう方はすごく多くて、仕事を続けたい女性

というのは多いのです。しかし、そこで従来の昭和の価値観というか、そういう価値観の男性とマッチングさせようとしても無理なので、このような男性とこのような女性のマッチングというのを謳ってしまえば、皆さんすごく出会いやすい、探しやすいのではないかと思います。

【大西委員】

- ・ 「出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援の推進」の中で、取組みの基本方向として「結婚や家庭が持つ意義について若者の理解が進むように啓発」とあるのですが、実際に私は今、子育て中なのですが、本当に単純に、純粋に子どもを持つ幸せ、家族と生活することの幸せや充実感をポジティブに啓発することが、若者にとっては意義を教わるよりも、結婚や子どもを持つことについて前向きに考えることに繋がるのではないかと思います。
- ・ 現状と課題のところの記述で、「核家族化や都市化の進行等により」という文言が幾つかの箇所出てきます。しかし、私の周りの子育て中のお母さんたちのお話を聞いていると、みんな子どもが病気のときに子どもをどこに預けるかということ、自分の親（おばあちゃん、おじいちゃん）なのです。そうであれば、例えば親の近くに子どもが住む形とか、三世代、あるいは四世代が同居することを推奨するようなことを進めていく。「公的にこのような制度が整っていますよ」「公的にこのようなセンターができましたよ」というのは良いのですが、まず自助や互助があつての公的な資源だと思うので、核家族化をそのまま受け入れて何もしないのではなく、そのあたりも考慮していただければと思います。

【内山委員】

- ・ まさに今、子育てをしているママと毎日関わっていますが、この頂いた内容の「結婚・出産・子育ての願いがかなう環境づくり」の中身としてはいろいろ書いてあって、これが充実すればいいなと思っております。
- ・ 先ほど大西委員からお話があったように、富山県のママたちは核家族もいるのですが、おじいちゃん・おばあちゃんに面倒を見てもらったり、放課後保育をしてもらったりという可能性もあるので、その辺がもっと充実していけばいいなと思いつつ、今の私たちの子育てはおじいちゃん・おばあちゃんの子育てから随分変わってしまっていて、おじいちゃん・おばあちゃん世代には「(親が)3歳まで見ないと、やっぱり子どもがかわいそうだね」と言われることがすごく多いと思うのです。

ママたちもそれはすごくよく分かっていて、見たい気持ちはあるのですが、経済的なことを考えると、それができなかつたりするわけです。しかし、そういうおじいちゃん・おばあちゃんたちの中には「この子どもたち、預けられてかわいそうだ」という気持ちを持つ方が結構多くて、せっかくバリバリ働いてきてお母さんが帰ってきたら、「もっと早く迎えに来てくれないと、かわいそうじゃないか」と話し掛けられることも多いそうです。その辺はやはり富山県は保守的なので、そうではなくてママはみんな頑張っているし、子どもたちもそこで社会性が育つのだという、支援者側の教育のようなことも

していただけないかと思います。そうでないと、働いているママは頑張っているのに責められてしまって、時代が進んでいるとはいえ、特に富山県はまだ保守的なのではないかと思っています。

- ・ 毎回言うのですが、どういう施策がいいのかは分かりませんが、やはりパパの育児が当たり前であるとか、子どもが病気になったらパパも帰るのが当たり前だという、先ほど村上委員からお話があった経営者側のイクボスをどんどんつくっていただければ、ママたちももっと働いて、元気な世の中になるのではないかと思います。

【金岡部会長】

- ・ ありがとうございます。既に議論が白熱しておりまして、展開目標1だけで随分たくさんのご意見を頂きました。今、お聞きしていて一つ重要だと思ったのは、いろいろご意見がありましたが、この政策目標が達成されれば、本当にこの計画全体が狙っている社会の目標になるかどうか、必ずしも判然としない。おそらく公助、自助、そして共助という、いろいろな助け合いの形があるのでしょうか、単に富山県当局としての考え方・政策目標だけではなく、もっと広く意見、そして社会ムーブメントをつくっていくためにどうするかという視点を入れていただきたいというご意見が多かったかと思います。

時間も限られているので、次に移らせていただきます。展開目標2「真の人間力を育む学校教育の振興と家庭・地域の教育力の向上」の政策番号6～14番について、大変多くの項目がございますが、これについてご意見があれば、また挙手をお願いします。

【和田委員】

- ・ 私は子どもたちと保護者の会ですから、いつも楽しくさせていただいておりますがこの政策骨子案を見ても、大変立派になってきており、一方でこれをどのように私たち県民が取捨選別していけばいいのか、こんなにも手を取り、足を取りと思いがちな様子を見ました。そこで私から提言なのですが、子どもたちの社会で生きる実践的な力の育成とか、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」のことについて、この言葉は随分長く使われて、皆さんも耳にしていると思いますが、この14歳といえば中学校2年生ですよ。そうではなくて、文言を変えて「中学生の挑戦」とした方が、幅が広くていいのではないかと思います。今までも1年生や3年生の方もいらっしゃるのかもしれませんが、ここで14歳と謳わずに「中学生の挑戦」とした方がいいのではないかと思います。1999年からですから、もう随分長くしておりますし、10年先のことを考えていくには、やはり全般的に1年生、2年生、3年生が本当に異年齢の感覚で、共同で社会を学ぶということが大事ではないかと思っております。
- ・ ここに教員の方々が退職されて教員志望者が少ない傾向にあると書かれていますが、私はそれが少し不安でした。やはり優秀な教員の確保が必要というのはここで謳われていますが、富山県は教育県で、全国で見ても教育が素晴らしいといわれているので、こちらでやはり先生方にも力を入れていただきたいと思っております。その反面、教員の方々は退職された後の2～3年間、何か子育てに役立つような、ボランティアと言っては失礼

かもしれませんが、何か子どもたちの力になるように奉仕するという精神も生まれれば、大変安心ではないかと思っております。

- ・ 学校・家庭・地域・企業の連携についてですが、これはそうしたいと思いつつも、流れがなかなか思うようになっていないのが現状です。地域は何をしていいのか分からない、企業は何をしていいのか分からない、家庭はなおさら何をしたいのか分からないという状況下で、連携の取り方をどうか分かりやすく皆さんにお示しされるといいのではないのかと思っております。

【神川副部長】

- ・ 先ほどの展開目標 1 も 2 もそうなのですが、いろいろな世代と関わっていると、やはり立ち位置によって考え方がさまざまということ、それから世代によっても意識が随分と違うということを実感いたします。どれが正しい、どれが間違っているということは決してないので、そういう意味ではいろいろな生き方をサポートできる施策になっていけばと思って私は全体を見てきました。特に教育のところ、「真の人間力を育む学校教育の振興と家庭・地域の教育力の向上」に関しては、先ほどもあったように 10 年は非常に短い期間でもあると思うので、やはりたくさんある 28 の課題の中でも、すぐに手を打っていかねばならない展開目標を見極めなければならないのではないのかと思っております。
- ・ 子どもは日々育っていきましますし、すぐに学校の段階も上がっていきます。そういう意味では、保護者や学校の先生など、そういうところの共通理解、研修も含めて、教育力といいますか、質の向上を目指していくことは必要かと思えます。全体的に見ると、かなり具体的なものは挙がってきていると思うのですが、これは展開目標 2 以外の領域についても言えると思いますけれども、すぐに手を打たなければならないところと、少し時間をかけて、今は種をまくけれども、育ち・成果はもう少し先になるものがあって、優先順位と言っては何ですが、そういうところを意識しています。同時に、先ほどもあった先生方をサポートする体制、保護者をサポートする体制など、もちろん一番は子どもなのですけれども、そういうところを有機的につなげていく政策間の繋がりもまた確認していかなければいけないのかなと思っております。
- ・ やはり年代が変わってきて、生活してきた背景が違っていると、若い人たちとは随分意識が違います。ただ、若い大学生と毎日接していると、彼らはすごく柔軟で、関わっていくことによって考え方が随分変わっていきます。年を取っても、その可能性はあると思います。若い人から意見を聞くことによって、全く意識が変わったりすることもあります。若い人がこのように考えている、私はここを改めなければいけないのだという意味で、先ほど事業主とか、先生とか、子どもといったお話がありましたが、世代間で理解を深めていくための意見交換などがどの展開目標でも必要ではないかと。全体として、自分が生まれてから育って年を取るまでのライフプランが見えるような体系になっていけばいいと思えました。
- ・ たくさんの意見が取り込まれて、いろいろなところに具体的な生活が見えるようなプランにはなってきているかなと思えます。最初に良いなと思ったのですが、具体的な細かいことを言うと、今は区切って議論をしているのですけれども、最後はやはり全体

を議論して、ぜひ繋がっているということの確認をしていただければと思います。
2回目にしてこのプランになってきたという楽しさと喜びは感じております。副会長長として言うことではないかもしれませんが、ありがとうございます。

【藤田専門委員】

- ・ 私は生涯学習、社会教育を専門にしているので、その観点から意見を述べさせていただきます。まず、未来10の「家庭・地域の教育力の向上」ですが、この中でやはり学校・地域・家庭の連携はとても重要ということで、文言として、また、内容として富山県はとても素晴らしく推進してきていると思いますけれども、現状として、今は国の方でも学校の先生や社会教育指導員OBなど、地域で活躍している方たちを地域コーディネーターとして育成しています。地域コーディネーターは、学校と家庭と企業も含めて、地域の中でもっと子どもたちが生き生きと育てるように、また、親も生き生きと親育ちができるよう推進する立ち位置ですが、その地域コーディネーターの養成・育成が今はもう出てきています。ぜひこの地域コーディネーターの役割を担う方を養成していただければと考えております。
- ・ また、未来13の「生涯をとおした多様な学びの推進」ですが、ここはとても幅広く押さえられており、期待したいと思うところです。ただ、ここで政策目標のところ「還元、活用」という言葉がありますが、活用という言葉なのか、もう一つは活躍の場の提供なのかというところがあります。ベクトルによって、活用という言葉にするのか、活躍という言葉にするのかはとてもデリケートなところかと思うので、その部分をご検討いただければと思います。県民の目から見ると、やはり活躍の場をという形を期待したいところです。
- ・ 他県のケースを見ていると、最近「生涯をとおした多様な学びの推進」についても文言が変わってきています。「生涯をとおした」というよりは「生涯にわたる」という文言が使われはじめていますので、この部分についても、これから10年と考えたときに、どちらの言葉を選ぶのかというところがあるかと思います。
- ・ 主な施策の項目と具体例の2に「学習者の活躍の場」とあるのですが、項目の1に「多様な学習活動の支援」という形で学習機会の提供、それから学習機会の充実ということが掲げられています。最近、これに活躍の場の提供、活躍の場の支援といったことが並びはじめています。この学習機会の提供と活躍の場の提供はセットになっていることが多いものですから、この部分について、分けて考えるというのものもあるかもしれませんが、最近並びはじめているということで、他県ではやはり両輪でいくというのが今の方向性ではないかと考えるので、この部分についてもご検討いただければと思います。

【山内専門委員】

- ・ 二つあります。未来8の現状と課題の項目でDV、児童虐待、いじめなどについて書いてあるのですが、デートDVはご存じですか。ドメスティックバイオレンスではなくて精神的虐待という、割と最近出てきたものなのですが、他のページにもあったように、スマートフォンが普及したことで若者の恋愛や人付き合いの形が濃密になり過ぎて、すごく相手を束縛したり、相手の人権を侵害するようなことを当たり前になってしまう

たりするという問題があるので、現状の認識として一つ加えておいていただければと思います。

- ・ もう1点、未来9の現状と課題の項目に「教員の多忙化が指摘されている」と書いてあって、確かにそのとおりだと思います。最近、テレビで見たのですが、東京だったか、部活動の担当は教師ではなくて外部の方をお願いしているという例がありました。その外部の方は地域のOB・OGで、しかも彼らは完全なボランティアではなくて、ちゃんと時給が支払われているのです。そのように外部委託というか、外注するのはすごく良いと思います。それによって生徒も、学校の先生だけだとすごく人間関係が限られて煮詰まるのですが、ちょっと違った視野の広い付き合いができます。また、大人になると、スポーツを頑張っても、プロになれなかったらお金にならない、意味がないとなってしまいがちですが、そのように教える側に回れる例があると、すごく部活を頑張っている子どもたちにとっても良いことではないかと思います。

【大野委員】

- ・ いろいろな項目について多岐にわたって網羅的に書かれており、方向性としては私もあるほどと思っているのですが、19ページにも書かれている「スマートフォンやインターネットの普及など、子どもを取り巻く環境が急激に変化し・・・」という点について、これは別に害ばかりではなく、有益な部分もたくさんあります。しかし、これを「家庭・地域の教育力の向上」の中だけの問題とするような捉え方になっているので、もっと学校教育の中でも、この有効性や弊害について併せて教えていく必要があります。
- ・ 一方で、こういったものの普及により、18ページにあるように課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育成していくことが大事になっていくのだろうと思うのですが、例えば東京都北区では新聞を活用して、子どもたちが新聞を読み比べて自分の意見や感想をまとめ、最終的にはコンクールにもなって、それにより非常に成績が上がっていったとか、そのような具体的な取組みをしているところもあります。多分、ここにも問題意識としてあるのだと思いますが、こういうことをもっと具体的にしっかりやっていく必要があるのだろうと考えています。
- ・ それに伴って、やはり先生方も非常に大変だろうと思うのです。要するに、記憶型の学習だけを教えていくのとは全く違って、もしかすると正解がないようなことを教えていくことになりまして、やはり新しい小中学校の教育指導要領などを見ると、例えば小学生から英語を勉強するとか、いろいろな項目が書かれています。従って、本当に教員の資質向上は非常に大事な問題なのだろうと考えており、ここも力を入れて取り組んでいただきたいと思いました。

【大西委員】

- ・ 私たち富山県PTA联合会の中でもたびたび話題になっているのですが、子どもを取り巻く環境が本当に目まぐるしく変化して、今ほど大野委員からお話もありましたが、SNSをはじめ、スマホなどの取り扱いについては一保護者、一家庭の問題ではなく、やはり学校や市といった大きなくくりでもルールづくりをしていかなければならないということがあります。それに加えて、SNSの普及によって子どもたちのコミュニケーション

能力がすごく低下している、自分の口・言葉で伝える能力がすごく低くなっていると感じるのも現状です。発する、伝えようとする能力が低くなっているのもそうですが、一方でそれを受け止める能力も低くなっていると思います。言われた言葉をそのとおりに受け止めてしまうのです。非常に人を傷付けやすく、また、傷付きやすい子どもが増えていると思います。この政策目標などを読んでみると、「人権を尊重する」というのは、一般的に他の人たちにも人権があるのだということ尊重するという書かれ方で、あるいは「いのちを大切にする」というのは、一つ一つのいのちを大切にするという書かれ方をしていると思います。それにプラスして、自分を大切にする子ども、自己肯定感とか、自分自身に自信を持てるといったことも、目標に盛り込んでいただけたらと思います。

また、最初に言いましたが、子どもを取り巻く環境が目まぐるしく変化している中で、非常に悩んでおられる親御さんもおられます。孤立している方々も多いです。相談する機関をもっと充実させるとか、県教育委員会と県PTA連合会で連携して親学びプログラムを進めていくのも一つだと思っております。

- ・最後に、先ほどからたくさんの委員の方々からお話がありましたが、先生が非常に忙しいです。私も子どもが2人いますが、預かっている担任の先生お二方を見ても、非常に多忙に見えます。ささいな相談はできないと気を遣うぐらい多忙でいらっしゃいます。特に中学校の先生は、先生方との懇談会の場で時間外勤務時間などを聞くと、びっくりします。時間外勤務が月100時間は当たり前とか、200時間を超える先生もいらっしゃるということで、先生方のご家庭はどうなっているのだろうと心配してしまうような状況です。その先生方にさらに資質向上を言うのはちょっと酷な話というか、もっと先生方にも余裕を持って子どもに向き合ってもらえるような施策を考えていただければと思います。

【金岡部会長】

- ・ありがとうございます。この二つの展開目標に対して、本当に多くのさまざまなご意見を頂きました。時間の関係もあるので、ここで石井知事から中間的なコメントを頂ければと思います。

【石井知事】

- ・ありがとうございます。大変多岐にわたる、また、それぞれ「なるほど」と思うご意見がたくさん出たと思います。
- ・最初のお話に出た、事業主の意識改革も大事だというのはそのとおりで、これから取りまとめに当たり、そういった問題意識についてはもちろん記述はあるのですが、もう少し掘り下げる必要があるかなと思いました。
- ・また、学童保育のお話が出ました。ここで「放課後児童クラブ」と言っているのとはほぼ同じ意味で使っておりまして、空き教室、場合によっては児童館を使って放課後児童クラブを運営しているところも少なくないと思います。あと、これからは「放課後子ども教室」を進めるということで、これは教育委員会が中心で、どちらかというと教育の方に力点があるのですが、いずれにしてもしっかり対応していきたいと思います。

- それから、マリさんから男女同一賃金やオバマケアのお話がありました。アメリカはご承知のとおり、オバマケアができる前はある意味ではすごくミゼラブルな部分もあったので、日本の方が進んでいる部分が多いには思いますが、またオバマケアでやっていることをわれわれもあらためて勉強して、もう少し充実すべき点があれば取り入れたいと思います。
- 山内さんからは、女性が大いに社会に出て活躍し、資金も獲得されて、男性が家庭の管理を主として担うという形だと、マッチングしやすいのではないかというお話もありました。これはなかなか難しいのですが、例えば富山県では丸3年近く、2年8~9カ月ぐらいになるでしょうか、とやまマリッジサポートセンターをやるときに、当然、男女のマッチングもいろいろやっているのですけれども、今言われたような注文は込み入った話になりますから、どのようにしたらいいのかと。例えばもう少し男女がより積極的に出会う場面のときに別途アンケートを採って、家庭での役割について自分がどう思っているかを男性も女性も聞いて、例えば山内さんがおっしゃったようなニーズのある女性にはそれにある程度フィットするような男性を紹介するとか、うまくいくかどうかは分かりませんが、そういった工夫ができるかどうか、また実践的にも考えてみたいと思います。
- 一方で大西さんが言われたように、もっと三世同居を進める政策があってもいいのではないかというお話もあったように思います。県内でも例えば入善町のように、三世同居とか、あるいは同居しないまでも若い夫婦が両親世代、祖父母の世代の近所に家を建てたり、引っ越ししたりした場合には、住宅の取得費や改修費の一部を補助するとか、税金を若干減額するといったことをしているケースがあります。確か富山県も不動産取得税を減免していると思います。いろいろな人生観・価値観があるので、あまり極端なことはできませんが、そういった支援策は今でも一部やっていますし、またこの機会によく整理してみたいと思います。
- また、内山さんのお話のように、若い世代はどちらかという和家庭の外で男性も女性も仕事を持っています。そうすると、どうしてもお子さんのケアを自らする時間が限られてくるので、それがいかなものかと思われる方々がいらっしゃることも事実でしょうし、実は私も経験があります。ちょっとかわいそうな気もしましたが、その反面、子どものころから人間関係が多様になって、結果としてすごくたくましく育ってくれたなと個人的には思うところがあります。
- いろいろな考え方があって、多様な生き方があるということをみんなが幅広く認め合うということのかなという気もしますが、県の計画でどのような表現ができるかをよく考えてみたいと思います。部会長や大西さんが言われた自助・互助・共助についてどう考えるかという整理もあらためて要るのではないかと思います。
- それから、「14歳の挑戦」ではなくて「中学生の挑戦」としたらどうかというのは、中学1年生でも3年生でもやっていいのではないかという趣旨でおっしゃっているのではないかと思います。これもまた教育現場で検討してもらいますけれども、そもそも「14歳の挑戦」をきちんとやっているのは全国47都道府県で富山県だけなのです。幾つかの県で、「これは良いことをやっているな、自分のところでもやってみよう」ということで取り組まれたのですが、ほとんどうまくいっていません。それは一つに、地域

の企業の皆さんの協力がなかなかそう簡単に得られないということがあります。また、富山県にはいわゆるブラック企業があまりないと言っていると思うのですが、親御さんが「よく知らない企業に子どもを預けるのは嫌だ」と言うケースもあるようです。そういった理由でなかなか成り立たないと聞いています。それから、「中1ギャップ」という言葉があるぐらいですから、やはり現場では中学2年生ぐらいになってからの方が安心だなと考える人が多いと。さらに中学3年生だと高校受験があるものですから、保護者も含めて「そんな時間があるなら、もう少し勉強させてほしい」ということになりがちだといったこともあるのではないかと思います。この点はまた現場でよく議論してもらいたいと思います。

- ・ 藤田さんが言われた「活用」ということだけでなく「活躍の場の提供」というのは、おっしゃる趣旨は分かります。ただ、気を付けなければ、「活躍」というと何となく上から目線で言っているような印象にもなりますから、それはよく整理したいと思います。
- ・ 山内さんが後で言われた、教員ではなくて外部の見識なり力のある人がスポーツの指導をするというのは大変良いことです。実は富山県はこれをやっています、スポーツエキスパートという制度があります。富山県で440名ぐらい置いています。配置率では、中部圏で調査した中では富山県が断トツに多いのです。全国のデータまではありませんが、これは大事なことだと思うので、今後も充実させていきたいと思います。
- ・ また、大野さんが言われた、教員の質向上も大事だというのはおっしゃるとおりで、特に英語の教科化を考えると、富山県は一つの中学校区に原則一つのモデル小学校を置いて、そこに英語の専科教員を配置しています。そして、そこ以外の小学校の先生もその授業などを見て勉強して、英語が実際に教科化されるのは平成32年でしたか、それまでにそのようなモデル校を2年ごとに順繰りに変えていって、全ての小学校がモデル校を1回は経験するという仕組みを取っています。富山県以外の県は国の補助対象になる加配教員だけを使ってやっていますが、富山県はそれでは追い付かないので、単独で上乗せして専科教員を置き、全国で断トツに一番熱心に取り組んでいます。そういう意味では、英語の教科化を国が打ち出していますが、実はそれにスムーズに移行するための予算措置は非常にシャブイーで、富山県の場合はそれを自分で相当カバーしているということです。
- ・ その他、SNSのお話やいのちの大切さのお話など、いろいろありましたが、おっしゃることはごもっともです。

【金岡部会長】

- ・ 石井知事、ありがとうございました。それでは引き続き展開目標3「文化・スポーツの振興と多彩な県民活動の推進」について、これも多くの政策目標がありますが、ご意見を承りたいと思います。

【吉田委員】

- ・ 「文化・スポーツの振興と多彩な県民活動の推進」ですが、富山県芸術文化協会は今、36の団体に参加していただいております、いろいろな行事、そして祝賀会にお邪魔するのが会長の役目の一つなのですが、ごく最近招待していただいたところで聞いた話で、

痛切に思ったことがありました。それが先ほど部会長さんの言われた重大な漏れかどうかはちょっと分かりませんが、一言申し上げます。

やはり富山県の芸術文化は非常に活発な展開を見せており、他県にないユニークな形になっているというのはいろいろ申し上げましたが、やはりでこぼこがあって、非常に世界的なレベルのものもあれば、かつては世界的なレベルだったけれども、今はどうも凋落してきているのではないかというものもあります。どちらかというと後者の方の団体に1週間ほど前にお邪魔したのですが、同じ会にいらした方もここにおられるので、「あそこか」と思われるかもしれませんけれども、そこで皆さんがおっしゃるのは、やはり芸術文化での良い指導者を持つことが、子ども、若者が一番伸びる要素であるということです。特に子どもはそうなので、ここにいらっしゃる皆さんも当然同意されると思いますが、指導者によってどうにも変わるということが非常に強いだろうと思います。

そこで、やはりいろいろな場面を経験してもらい、与える、発信するということも含めて、良き指導者の招聘を密に行い、子どもたちがそういう方に教えてもらって人生の目標を持つ、あるいは目からうろこになるように、そういう体制を見直した方がいいのではないかと考えております。今、芸文協では、県の全面的なバックアップで指導者招聘事業を実施していますが、この見直しも含めて、また、やはり分野をもう少しバラエティ豊かにしなければいけないのではないかと考えております。今、ハンガリー、チェコとは非常にスムーズに長期にわたって交流していますが、やはり分野が多少限られてくるということもあるわけです。ちょうど10年だと、回数等を含めて見直しの時期なのかなと考えております。非常に良い活動をしており、それを保持すると同時に、やはり他への目配りも必要となっており、そういった点がもしかしたら抜けているのではないかと考えました。

【老月委員】

- ・ 体育協会ですから、未来18「スポーツに親しむ環境づくりの推進」と未来19「全国や世界の檜舞台で活躍する選手の育成」について意見を述べさせていただきます。先月、国の方では第2期スポーツ基本計画が発表されました。これは平成29年4月から5年間の計画です。その中でも、こちらの18番の目標でも、スポーツの本来持つ、スポーツを楽しむとか、スポーツをする喜びを感じながら、少しでもスポーツをしたり、見たり、支えたりということで、スポーツにいろいろな形で参画する人口の拡大が大切だということに触れられています。今回のこの計画にもそれと同じような方向性が示されているので、非常に良い方向性ではないかと考えております。
- ・ また、そのためにはスポーツを支える人材の育成や場の充実などは当然ですが、昨年のリオオリンピックでは本県の出身者が金メダル二つ、それからパラリンピックでも銀メダルを取られたということで、県民の皆さんが大変盛り上がりました。こういう機会に、子育てや会社が忙しくてスポーツから遠ざかっている方々に「また少しスポーツに取り組んでみようかな」という形で取り組んでいただけると、スポーツ実施率も上がってくるのではないかと考えております。
- ・ 施策の具体例にも書いてありますが、ウォーキングイベントや湾岸サイクリング、

これには石井知事もよく参加していただいていますけれども、その他に富山マラソンがあります。隣の金沢マラソンと違って、富山マラソンはフルマラソン以外に短い距離もやっているのです、いろいろな方々に気軽に参加していただけます。このようなイベントをたくさん開催していただき、スポーツに親しむ環境づくりを広げていただけたらと考えており、こちらの基本的な方向性や具体例は非常に素晴らしいと思っております。

【関専門委員】

- ・ 私は未来 20 の政策を中心に発言させていただければと思います。一つは NPO の活動基盤の安定・強化というところで、例えばレンタルオフィスというわけではないのですが、空き家を使った NPO の活動拠点の整備の推進など、そういうものが出てこないかなと思った次第です。そういうものを入れることによって、よその部会にも関連するのかもしれませんが、このようなボランティア・NPO の推進だけがぽつんと出てくることなく、県の他の政策と横につないで連携した中でこのようなものがあるという位置付けがあると、面白いのではないかと考えています。
- ・ もう一つは、先ほどの政策の未来 7、8、9 にも関わってきますが、子どもたちのキャリア教育に絡んで、私たち福祉分野では福祉教育という言葉を使っています。それは生きる力を育むとか、人権について学ぶとか、あるいは文科省の言うような人間力を育むということにも共通するものがあるかと思うのですが、そういった人として必要なもの、生きていく上で必要な力を養う活動の一つにボランティア体験があるという位置付けで、ボランティア体験を通して社会について知るとか、人との関わり方を学ぶとか、広い関連性を持たせることができるということで使っているものです。差し支えなければ、福祉教育という言葉もまた政策の中にご活用いただければと願っております。

【坪内専門委員】

- ・ 私は未来 18 の「スポーツに親しむ環境づくりの推進」について、今日の新聞に、ある企業団体がスポーツ振興財団を設立し、人材の育成、障害者スポーツの支援、子ども向けの大会・イベントの支援をするということが載っていました。やはりスポーツにとって、企業というのはすごく大きな力だと思います。そして、この政策目標にあるスポーツを「する、みる、支える」という点でも企業が本当に重要になってくると思うので、この具体例の中にプロスポーツと連携した地域の活性化とありますが、そこに企業という言葉も入れることで、スポーツの力でより地域が、そして県全体も活性化していくのではないかと思います。

【西野専門委員】

- ・ 富山第一銀行の西野です。今年度も煌めく女性リーダー塾が行われることになっております。この塾の良いところは、やはりリーダーを目指す女性が企業で相互の交流をして、自己研鑽していくことだと思っております。また、業種や職種の違った方がいろいろ交流することによるネットワークの構築も考えております。これは私たち企業が県の方のご協力を得て、今後、管理職を目指す女性になってほしいと願っているものです。

一方、その反対もあってもいいのではないかと考えています。県の方が企業に協力を求めてやっていくということで、今もやっていると思うのですが、先ほど学校の教育についてのお話もありましたけれども、企業の方が学校に行って金銭教育をしたり、自分の専門分野・部門のことについて大学生に教えたりといったこともあると思います。これをもっと企業全体として考えていただければ、もっと学校の先生もやりやすくなりますし、受け身である受講生もいろいろなことを学べて、それが社会人になっても役立つと思っております。ですから、やはり企業と県の交流がもっとできればと思います。

- ・ 先ほど村上委員がおっしゃっていたイクボス宣言ですが、やはり経営者の方にイクボス宣言をしていただければと思っています。どちらかというとな経営側はもうほとんどの方が育児をご卒業されていますが、ボスというのはやはり若者を育成していかなければいけない部分もあるので、やはり企業のトップの方がイクボス宣言をできるような環境づくりというか、そういったことも少し加えていただければと思っています。

【藤田専門委員】

- ・ 私は社会教育、博物館教育も専門なのですが、政策の未来 17、34 ページに富山県美術館のことについて書かれています。この中にぜひ入れていただきたいことがあって、やはり社会教育法下、博物館法下にある美術館というのは博物館施設です。そういうことを考えると、やはりここに美術教育など、教育という文言は一つ入れていただけたらと思います。
- ・ もう一つ、やはり地域の活動の場にあるボランティアなど、いろいろな形の活動の場の拠点としてということも博物館施設には求められています。ですから、富山県美術館のコンセプトというところに地域の拠点という文言が入っているのであれば、やはりそこに活動の場ということで、もう少し人が見える形の何かを入れていただければと感じております。

【山内専門委員】

- ・ 未来 16 の政策ですが、この間、富山県美術館のプレオープンに行ってきました。最高でした。すごく良かったです。コレクションはさておき、企画展がこれからどんどん企画されていくと思うのですが、県外の美術ファン、お客さんをお呼べるような企画には是非していただけたらと思います。人は必ずそういう美術館に結構足を運ぶので、観光スポットになるかと思います。美術館についてはチラシで大体チェックするのですが、全然違う地域のチラシが置いてあって、それを手に取って初めて知ることが多いので、県外の美術館にチラシを置いてアピールしていくのも手ではないかと思います。また、最近はアートアプリのようなものもあって、アプリの中でチラシを見ることもできます。どのような宣伝ができるのか、お金を掛けずにいろいろな地域の人に伝えられるよう工夫されると、より良いかと思います。
- ・ また、未来 19 の「全国や世界の檜舞台で活躍する選手の育成」について、この間、テレビでスノーボードの大江光選手に密着したドキュメンタリーのようなものを見たのですが、彼女は富山ですべて練習されていて、その練習風景を見る限りではあまり恵まれていないなと思いました。専属のコーチは特に付いておらず、多分、資金的にも厳

しくて、自分のお母さんなどが出してくれているような状況だと思います。支援がされているように見えるのですが、ピンポイントで誰か一人にスポットを当てると、意外と支援が全然行き届いていなかったりするのではないかと思います。もしかしたら既にされているのかもしれませんが、メダルを取る可能性がある、テレビで密着もされるような選手であるにもかかわらず、支援が全然行き届いていないとってしまったことは事実なので、書き留めておいていただけたらと思います。

それからデートDVのことですが、記述がありました。未来22にしっかり入っていました。失礼しました。

- ・ 次に未来21の「若者の自立促進と活躍の場の拡大」について、この中にひきこもりという単語は入っていますか。ちゃんと隅々まで読めていないのですが、もしも漏れているようであれば、ひきこもりについての調査なり、ケアなり、書き留めておいていただけるといいかと思います。絶対にいるはずなのですが、やはり人に知られたくないことなので顕在化してきません。しかし、ゆくゆく世代が交代していったら、ものすごく大きな問題になってきてしまうと思うので、10年単位で考えるのだったら、確実に今のうちに家から出てきて就業してもらう方向に誘導する必要があるかと思います。
- ・ 最後に男女共同参画社会づくりについてなのですが、審議会等の女性の参画について、審議会は議会とは違いますよね。私が見る限りでは県議会のメンバーの構成しか確認できなかったのですが、男性が8~9割ぐらいです。やはりそういうものを見ると、残念に思ってしまう。その割合を上げるのはすごく難しいと思うのですが、おそらく、この割合はおかしいと思っている方はたくさんいると思います。しかし、すごく根本的な問題なのに、なかなか誰も言えない、言わないようなところなので、もし可能なら、委員の男女の割合を5対5ぐらいにするような感じで目標を設定してもいいのではないかと思います。

【金岡部会長】

- ・ ありがとうございます。たくさんのご意見を頂きましたが、展開目標4については、前回、時間不足になってしまい、ご意見をあまりお聞きできなかったもので、4に移りたいと思います。
- ・ 今のご意見の中で一言だけ私もコメントさせていただきますと、吉田委員から良い指導者の存在についてお話がありました。私もこの全体の計画を見ていて、それについての記述が少ないなど。スポーツに限らず文化でも、やはり指導者がいてこそ初めて目標が達成されます。特に若者に対してはより重要だと思うので、それは吉田委員のおっしゃるとおりではないかと私も感じました。
- ・ それでは最後の展開目標4「ふるさとの魅力を活かした地域づくり」について、ここはぜひ小見委員に口火を切っていただければと思います。よろしく願いいたします。

【小見委員】

- ・ それでは、展開目標4「ふるさとの魅力を活かした地域づくり」についてお話しさせていただきます。全体を通して見ていると、非常によく書かれているなと思いましたが、政策の未来26の取組みの基本方向のところに「地域の景観に調和した良質な屋外広告

物の設置誘導や無電柱化、新幹線等からの立山連峰の景観の確保」とあります。この「新幹線等」の中には、多分、車や他の電車も入っているのでしょうけれども、やはり新幹線に固執するのではなくて、例えば最近では台北からの飛行機が非常に富山の方に来ています。観光客も、今の時期であれば雪の大谷、これからであれば黒部溪谷など、大勢の外国人の方々が行かれるわけです。空港に着いて、目的地までどうやって行くかというところ、やはりバスや他の電車、車などの他の交通機関を利用するのですが、やはり途中、途中の景観も非常に大切かと思えます。

私たちが海外や他の県へ行ったときに、やはり美しい風景の中にぽつんと一つだけ目立つものがあると、それだけがずっと残ってしまうのです。富山がそうならないように、これから10年先を見通して、海外から来る人たちに緑、そして山の美しい富山県を心の中に留めていただくためにも、新幹線に限らず、飛行機やその他の幹線道路などについても一言入れて、富山県全体をきれいにを見せてほしいと思います。

景観というと、一般の人はなかなか取っ付きにくくて、子育てや教育など、そういうところには目が行くのですが、景観については自分ではない誰かがやってくれるものだろうという感じ方もあると思うので、その辺をやはり一般市民の方たちにも感じてもらえるように、いろいろな方法で広めていってほしいと思います。富山県でも確か景観フォーラムとか、屋外広告物に対する表彰式などをやっていますが、やはりそれにも一般の方たちに多く参加していただき、美しいものを富山に広めようという意識を高めていただくのがいいのかなと思っております。新幹線だけに限らず、他のことについても文言を入れていただけたらと思いました。

【マリ・クリスティーヌ専門委員】

- ・ 全体的に見ていると、恐らくこの28政策の中で幾つかは、見開き2ページだけでは言い切れないような内容のものがある気がします。例えば21番、22番、23番の三つも。やはり外国の方々にもっと富山県に来てもらうためには、もっと外国人にとっても魅力ある町・地域でなければいけないような気がするので、そここのところをもう少し掘り下げていただき、もしもう一つ章を入れるならば、やっていただきたいなど。先ほど見ましたら、ベトナムやフィリピンの方が多く住むようになってきたりして、国際交流協会も非常に大きく、皆さん頑張っていると思いますが、見に行っているいろいろな参加させていただいています。
- ・ この四つのグルーピングの中で、例えば先ほど人権のお話もありましたし、いのちの大切さ、それから性のこと、デートDVなど、いろいろなお話があった中で、やはり女性たちがだんだん年を取ってきて更年期障害になり、職場で働きづらい精神状態になって、さらに最近は男性の更年期障害も非常によくいわれるようになってきましたが、やはり性という一つの縦軸がすごく大事ではないかと思うのです。これは全部横軸になっているところをどこか一本縦軸で、例えば小さいときの、それこそ妊娠するまでの間の自分をどう大切にするか、それが本当に望まれた妊娠なのかどうかといったことから、自分の相手の選び方、生まれた子どもをどう育てていくか、この前のような悲惨な事件がないように不審者をいかに自分で見分けるかということまで、小さい子どもに対する性教育が必要です。それから、SNSやいろいろなITの中で子どもたちが餌食にならな

いようにするには、やはり中学校などで SNS との関わり方などを教える必要があり、また、それも性とやはり関わっていきます。

日本の場合、性教育に対してものすごくアレルギーがあるように感じます。以前、神奈川県横浜でやっていたときもそうなのですが、性教育はどこでするものなのかというところ、親御さんたちからいろいろな批判を受けるということで、教育委員会や学校は嫌がるのです。しかし、やはり性というものは自分できちんと学んで、理解して、なおかつ自分を無防備にしないためにもすごく重要な教育だと思います。ただ、年齢によってどう教えていくかが違うわけですから、一つそのような縦軸の中で、奥さんが更年期になって、夫婦げんかが多くなって、家庭崩壊にもつながるわけですから、そういうことも含めて何かここに縦軸を何本か、人権に対してもそうだと思いますし、差別に対してもそうですし、全てにこれがつながると思うので、そういうところも見てはどうかと思いました。

【山内専門委員】

- ・ 景観づくりと先ほどの文化的なところとかぶってきてしまうのですが、富山県美術館はすごく良いなと思った一方で、車なしに県外から観光で来られた場合、駅から結構歩かなければいけないではないですか。それがなかなかつらいのです。前、会議でシャトルバスか何かを出すということをおっしゃっていたかと思いますが、歩くとしても結構寂しい景色なので、歩くのが厳しい、つらいと感じてしまいます。何か散歩が楽しくなるような工夫があれば、より良いかと思います。
- ・ もう1点、最初のアンケートの話に重なってしまうのですが、若者の8割が富山で満足しているという状況を、多分、これはすごく良いことではあるという感じでおっしゃったと思うのですが、これはすごく保守的で先細りのような気がしました。むしろ若者は一度外に出て、たくましくなって戻ってくるぐらいがいいのではないかと個人的には思っています。

出っぱなしではなくて戻ってくるのは、やはり便利だからという合理的な理由に加えて、愛着があってこそだと思うのです。そのときには、愛着を持ってもらえるような町なのかどうかというのがポイントになってくるのではないかと思います。私も頻繁に富山に戻ってきますが、歩いていても、あまり若者の姿を見掛けません。何か町にいないというか、学校にいるのでしょうかけれども、昔に比べて遊ぶところ、お店などが減ってしまったので街にいないのです。ファボーレにいるのか分かりませんか、全然見掛けなくて、本当に存在していないぐらいの勢いで気配を感じません。ですから、本当のところ、何を考えているのか分からないのですが、町とコネクトする機会というか、無理やりイベントを企画して場を提供するのではなく、普通に若者が町をうろくしても楽しめるような、町に出ていきたくくなるような景観というか、町・地域にしていけたら最高かと思います。

【金岡部会長】

- ・ 特にこの景観のところは大変難しいですね。私も感じますが、日本はプライベート（私的）な権利の制限が非常に難しい国で、多分、このあたりはヨーロッパなど、長い伝統

のある国とは大違いなのでしょうけれども、まちづくりも同じで、多くの方の協力を得ないといけません。まちづくり、景観づくり、そして若者が集まるような場所づくりというのは非常に長期の課題になると思います。それに富山県をはじめ、公的な機関の皆さまがどのような関わりを持っていくかというのは非常に大きな課題ですが、10年という長いスパンでの計画ですから、そこに対する何らかのご意見なりを出していただければありがたいと思います。

- ・ 皆さまのご意見をお聞きして感じたことがあるのですが、一つはやはり文言の選び方について、皆さまからさまざまなご意見がありました。私も会社でこのような計画づくりに何回も携わったことがありますし、過去の計画を見たこともあります。10年のスパンというのは非常に難しいのですが、1年経ってこの計画を見たときに、例えば文言が古い、もう使われないような言葉が使われているとか、それからこの章立ては四つの重点項目が恐らくプライオリティ順に並んでいるのでしょうけれども、それが1年もすると陳腐化してしまって、この計画は古いということで、参照されなくなってしまう可能性があります。そういう意味では非常に難しいのですが、どのような章立て、政策の順番にして、どのような文言を選ぶのかというのは、2~3年先を見通して少し時代を先取りした形で作らないと、恐らく計画がすぐに参照されないものになってしまう可能性があると思います。
- ・ もう一つは、これも皆さまからさまざまな指摘を頂きましたが、どうしても富山県という大きな中で政策を実行される場合に、部署ごとに考えて全体を取りまとめているのだと思いますが、横串というか、全体を通した視点、先ほどマリ・クリスティーン専門委員も言われたライフプランを通してのものの考え方がどうしても欠落してしまうところがあります。これも大変難しい課題ではありますが、そのあたりについて何らかの期待と申しますか、工夫を賜ればと考えております。

まださまざまなご意見がおありだと思いますが、少し時間を残すところで、ここでまた石井知事からコメントを頂ければと思います。

【石井知事】

- ・ 大変貴重な、また、多岐にわたるご意見をありがとうございました。吉田委員、また、金岡部会長からもお話がありましたが、芸術文化はもちろん、スポーツもやはり良き指導者がいることによって、特にお子さんは可塑性に富む年代ですから、非常に大きく成長するというのはおっしゃるとおりで、そうした視点をしっかり大事にしたものにしていきたいと思います。
- ・ スポーツを例に取れば、先ほども一部申し上げましたが、他にも元気とやまスポーツ道場とか、あるいは小学校5年生のときに未来のアスリートを選ぼうということで、毎年、50~60人ぐらいを選んで、始めて10年ぐらいたったでしょうか、その中から高校総体で優勝したり、国体で活躍したりする選手が出てきています。これは今後もしっかりやりたいと思います。芸術文化は価値観の問題があって、どの人が優れた指導者なのかというのはなかなか難しい面もありますが、心掛けていきたいと思います。
- ・ また、子どもの生きる力を育むためのボランティア体験とか、そのようなご趣旨でおっしゃった福祉教育など、そういったことももちろん大事だと思います。

- それから、プロスポーツチームと地域との関わりの記述があるのですが、おっしゃるように、当然、企業との連携も大切だと思います。ただ、どちらかという富山県は2000年国体以来、企業側がむしろそういうことをかなり整理してきたという歴史があります。あらためてもう少し富山県というフィールドで県民の皆さんに健やかに、たくましく、できれば美しく輝いて生きてもらうには、現にやっぴらっしゃる企業もありますが、そういう視点で企業の皆さんにもまたいろいろご参加いただければと思っております。
- リーダーを目指す女性をしっかりサポートしていくためにも、経営側のトップの例えばイクボス宣言は必要だと思いますし、私も一昨年の秋にイクボス宣言をしましたが、その後、県内では北陸銀行をはじめ、いろいろなところでそのような宣言をされる経営者が出てきています。今年はできればイクボス企業同盟をつくり、みんなで若い世代の働き方、生活の仕方、家庭内での役割といった点をしっかりサポートしていこうと考えております。これはまた多くの企業の皆さんに働き掛けたいと思います。
- また、博物館法の話が出ましたが、富山県美術館ということですから、非常に限定された地域の拠点というのはなかなか難しいように思いますが、またよく連携していきたいと思っております。それから、山内専門員から県外の美術館ファンを呼べるようにというお話がありました。おかげさまで今、東京でも知る人ぞ知る存在になってきており、日本橋とやま館でも富山県美術館のアピールの機会を設けたり、資料を配布したりしています。まだ本来の美術品が来ていないのに、4週間ぐらいで10万人ということになっているのですが、8月26日の本格オープンに向けて、しっかり準備していきたいと思っております。アートアプリについてもご示唆がありましたが、そういったことも含めて努力していきます。
- あと、大江光さんの話が出ましたが、実はそういう方は何人か各分野にいらして、ささやかながらも補助金を出したりして応援しております。遠征など、いろいろなことでどうしてもお金が掛かるので、今後も支援を心掛けていきます。
- 審議会等についてはなるべく女性の参画比率を上げようということで、富山県では国よりもかなり早い段階で女性の参画率4割を目標にしています。そういうことで、実際にほぼ4割に近付いていると思っておりますが、県議会、その前に国会、市町村議会ということになると、少なくとも日本の場合は女性の割合を決めていないので、やるとすると、それは法律的に可能なのかという気もしますけれども、その前にやはり国会なり県議会なりにぜひ参画したいという女性が増えるような社会の在り方になっていかなければいけないので、これは多少時間がかかるかと思っております。あまり法律や何かで決めないで、おのずからそうなることがいいのかもしれないですが、これはいずれにしても少し時間がかかるかと思っております。
- 新幹線だけではなくて景観が大事だというのはおっしゃるとおりで、多分、51ページの3段落目の記述をご覧になってのお話だと思いますが、これは今までこういうことをやりましたよという記述であって、もちろん新幹線以外の幹線道路なども大事です。日曜日に富山湾岸サイクリングということで、私が台湾から来た40名ぐらいのサイクリストをエスコートしてというか、一緒に走ったのですが、少し曇っぴはいましたけれども、それでも立山連峰はかなり見えましてし、海はもう本当に美しく見えて、例えば

入善の町役場の近くの通りなど、幾つかの通りで「海や山も見えてきれいですね、街並みがきれいですね」と言っていました。全部が全部とは言いませんが、5年前、10年前に比べると、県内の街並みはかなり良くなってきています。電線の地中化も進んでいますから、そういった点は今後ももちろん心掛けていきたいと思えます。

- それから、人権や性など、いろいろな問題で、縦軸で見る必要があるというのはごもつともです。これは1項目見開き2ページという制約の中での取りまとめですが、実際の計画の段階では、当然、そういった点は考えていきたいと思えます。ちなみに教育長もここにいらっしゃいますが、例えば性教育など、そういった問題についても、昨年度から高校生を対象にライフプラン教育をスタートしています。中学生には今年からということで、もちろんその前からある程度やっていたのですが、もう少し本格的にやるということで実施しており、今後も努力していきます。
- その他、富山県美術館へのバスは、ちょうど隣が日赤ということもあるのですが、地鉄さんで富山駅との循環バスが確か1日、20分置きに出ています。それから、歩くと寂しいという大変厳しいお言葉を頂きましたが、今度、ぜひ歩いてみてください。富山駅北口から歩いて行って、富山市体育館といたち川の間を渡ると、これまでは環水公園の管理用道路だったのですが、それでは寂しいということと、大勢の人が芝生の広場を通ると、空間がやや込み入った感じになりますから、多くの方を誘導するのにいたち川沿いの道路を改修し、これを美術館へのプロムナードとして整備しました。その場にエドヒガンを植えて、エドヒガンはうまく育てると2000年持つという木ですから、「千年の桜並木」と銘打って、今、整備しています。また、いろいろなイベントの機会に屋台を出して、そこでいろいろな楽しみができるように実はなっていますから、この次、ぜひご利用いただきたいと思えます。
- 若者が町にいないというのは、特に東京の渋谷や新宿と比べるとおっしゃるとおりだと思うのですが、一つには富山県では大学が、富山大学も県立大学も割と郊外にあるのです。ですから、富山駅周辺、あるいは高岡駅周辺を見ても、ちょっと若い人が少ないというのはあると思えます。ただ、それを何とかカバーしたいと思っていて、富山県美術館をあそこに建てたのも、そのような狙いがあります。それから、富山県民会館の1階にD&DEPARTMENTも誘致しました。これは公募ですから、もちろん自主的に来てもらったのですが、5年前、10年前に比べると、随分若い人が来るようになりました。その他、郊外にある大学が多いので、実は大学コンソーシアムを数年前からつくっています。この大学コンソーシアムの講義を、個々の大学でやる場合もありますが、県民会館の部屋を借りてやるとか、あるいは現在いろいろ検討中ですが、もう少し若い人にとって利便性の高いところで企画をして、人が町に出てきやすくするというのを、今、考えております。努力しますが、またいろいろとご意見を頂きたいと思えます。
- 最後、金岡部会長の取りまとめはそのとおりで、せっかくの10年計画ですから、後追いではなくて若干先取りして、多少はとがったことも記述できたらと思っているので、よろしく願います。

【金岡部会長】

- ・ 石井知事、ありがとうございました。そろそろ時間ぴったりとなります。皆さま、今日は本当にたくさんご発言いただきましたが、まだ言い足りない方もたくさんいらっしゃると思います。ご意見用紙が付いておりますので、そちらをご活用ください。今、石井知事からもコメントを頂きましたが、具体的な要望や表現について、先ほど少し厳しいことを言ってしまいましたけれども、計画を作った瞬間に陳腐化してしまうので、先取りをしているということを用語や表現の中にぜひとも取り入れて、up-to-dateなものにすることが大切だと思います。あるいは、重点項目の並び方を変えた方がいいのではないかというご意見について、ぜひともこのご意見用紙に足りないところは記述して、ご提出いただければと思います。
- ・ 本当にたくさんの貴重なご意見を頂きまして、ありがとうございました。指名するよりも、皆さんからたくさん手を挙げていただいて、大変助かりました。皆さま、本当にありがとうございました。